

平成22年度教育委員会事務点検評価(平成21年度実施事務事業)評価表

1 事務事業の基本事項

整理番号 18

事務事業の名称	中学校社会体験チャレンジ事業		担当部課	教育委員会 学校教育部 教育指導課	
			電話番号	04-2953-1111 内線5652	
実施期間	平成13年度 ~				
総合振興計画における位置づけ	5章	人を育み文化を創造するまちをめざして	実施計画(H21~23)事業名	中学校社会体験チャレンジ事業	
	2節	次世代教育の充実			
	3項	地域に根ざした教育の推進	個別計画等の名称		
	2目	家庭や地域の教育力の向上			
実施根拠					
事業区分	<input checked="" type="checkbox"/> 自治事務 <input type="checkbox"/> 法定受託事務 <input type="checkbox"/> 法定受託事務+自治事務				
事業開始の背景等	子どもたちを取り巻く環境が変化する中で、勤労観や職業観の未熟さや社会性の欠如等により、ニートやフリーター、早期離婚者が増加するなどの問題がおきている。このため、子どもたちに正しい職業観や勤労観、社会性等を身に付けさせることが急務となっている。				

2 事務事業の目的・内容

目的	学校・家庭・地域社会が連携し、生徒に正しい勤労観や職業観、社会性等を身に付けさせるために、社会体験活動を実施する。	
対象	全中学校	
活動内容	インフルエンザの影響で1校が中止となったが、9校で実施した。実施学年は1年生が8校、2年生が1校であった。実施期間は、3日間が8校、5日間が1校であった。参加延べ人数は4,473人であった。生徒を受け入れた業種は、農業・食品製造業・飲食業・理容美容関係・学校関係・公共機関・社会福祉施設・医療機関などの多岐にわたった。	
(下段)前年度の方向性に対する改善活動	(前年度方向性評価)	継続
環境配慮	各事業所に生徒が赴くことで、活動先の環境配慮を学び、学校で活用できるものを取り入れる。	
実施形態	<input checked="" type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> 補助・負担 <input type="checkbox"/> その他( )	

3 事務事業の実施状況と成果

区分	指標名	区分	単位	19年度	20年度	21年度	22年度	目標値の根拠・考え方
(活動状況指標)	中学校社会体験チャレンジ事業の実施校数	目標値	校	10	10	10	10	全中学校10校で実施する
		実績値		10	10	9		
	達成率		100.0%	100.0%	90.0%			
	達成率							
(成果指標)	中学校社会体験チャレンジ事業への参加率	目標値	日			3	3	参加対象生徒数一人あたりの平均参加日数(全参加延べ日数/参加対象生徒数)
		実績値				3		
	達成率			100.0%				
	達成率							

4 事業費

		区分	単位	19年度	20年度	21年度	22年度
経費	直接費	予算額	千円	350	350	350	350
		決算額	千円	329	439	443	
		財源内訳	国県支出金	千円			45
	その他特定財源		千円				
	一般財源		千円	329	439	398	
	人件費	従事職員数	人	0.12	0.07	0.07	
人件費(従事職員数×平均給与)		千円	1,076	642	644		
		事業費計(直接費決算額+人件費)	千円	1,405	1,081	1,087	
効率性指標	指標名	チャレンジ事業実施校数	校	10	10	9	1単位当たりの経費
	単位コスト	実施1校あたり経費	円	140,500	108,100	120,800	

5 事務事業の評価

第一次評価(担当課による評価)

項目	評価の視点	評価	評価理由
個別評価	必要性	4	様々な事業所での社会体験活動や人々とのふれあいは、社会性や自立心、正しい勤労観や職業観を育成するうえで、効果的であり、実施することの必要性は高い。
		4	
	有効性	4	全中学校で実施することができ、直接的な効果とともに、中学校の生徒を地域社会が受け入れることにより、学校と地域との連携が深まり、開かれた学校づくりにも寄与することができた。
4			
効率性	手段の最適性 コスト効率の向上 受益者負担の適正化 執行体制の効率化 など	4	教職員が各事業所と連絡調整を図るとともに、事業所の協力も得て、経費も最小限にとどめ、効率的に実施することができた。今後も、より多くの事業所の協力を得ていきたい。
		4	
< 5段階評価 >    5:極めて高い    4:高い    3:普通    2:低い    1:かなり低い			
<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 内容の見直し <input type="checkbox"/> 抜本の見直し <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 完了			
今後の方向性	現行の内容に工夫と改善を加えながら継続する。		

6 その他(学識経験者の意見等)

キャリア教育の日本の学校教育上、急がれるべき課題である。形骸化せず、実質的な運用を。協力してもらえる事業所の拡大、ボランティアの導入などが必要である。学校教育関係者のみならず、社会教育関係者を加える事業へと工夫することが望まれる。